

【国語・小学校3年・「くらしと絵文字」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(1)ア
(思、判、表等) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉えることができる。 Cア
(学びに向かう力等) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝えあおうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

文章全体の視覚的な捉えやすさとペア、全体での視覚的共有のしやすさをねらった授業

【自力解決する過程】

説明文（「くらしと絵文字」）を「はじめ」「なか」「おわり」の三つの大きなまとまりに自分で分ける

【学び合う過程】

ペアで考えの共通点・相違点を理由を付けて説明し合う

【まとめる過程】

クラス全体で適切な分け方を考えまとめる

事例の概要

【自力解決する過程】

- 指導者はあらかじめ教科書の本文全体をタブレットに取り込み、児童に配信する。
- 児童は、前時までの読み取り学習を踏まえ、「はじめ」、「なか」、「おわり」の境界線と思われる箇所に区切り線を引き、その理由を考えておく。

【学び合う過程】

- ペアで、タブレット画面を見せ合いながら、画面表示を拡大したり、ページを自在に繰ったりしながら、互いの考えを共有する。
- ペアの中での適切解を導き出すための話し合いを上記のようなタブレット活用で行う。

【まとめる過程】

- 指導者用のタブレット画面をモニターに映し、児童の発表を書き込みながら、まとめていく。
- まとめる過程で、指導者が児童に特に考えさせたい箇所の画面を配信し、考えを深めさせる。

【小学校・3年・国語・「くらしと絵文字」】②

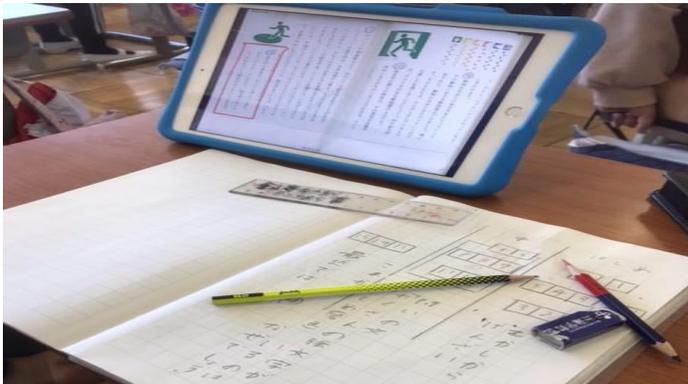
【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



【事例におけるICT活用の場面③】



【場面①】

自力解決する場面では、児童は、あらかじめ指導者から配信された教科書の本文に「はじめ」、「なか」、「おわり」の境界線と思われる箇所に区切り線を引いていく。児童は、その際の手掛かりとして、前時に学習した（学習履歴を保存しておいたため）、筆者の考え（青線部）の表現と、それを支える事例（赤線部）の表現とを基に考えることができる。教科書に直接書き込むよりも、タブレットに書き込むほうが修正が容易であるので、児童は思いきり試行錯誤できる。

【場面②】

学び合う場面では、ペアになり、自身の考えをタブレットの画面をタップしたり、拡大したりしながら説明し合った。スピーディーに場面転換できるため、考えを述べ合う様子が活性化されていた。また、授業への取組に課題のある児童も、タブレットを介して説明するという行為により学習意欲が高まり、そうした児童を学習の場に載せるという意味でも効果があったと感じた。

【場面③】

まとめる場面では、クラス全体で適切な場面の分け方を吟味した。意見が割れたタイミングで指導者が、写真に示した焦点ともなる段落を枠囲みした画面を全員に配信することで、考えを深めさせようとした。児童は、この段落が「なか」に入るのか、「おわり」に入るのか、焦点化して考えることができていた。このように、全員への画面配信は、指導者のねらいとする内容を考えさせる点でも、児童を一斉に学習に向かわせる点でも、効果を発揮していた。